

諸外国における 急性期入院医療のアウトカム指標

国際医療福祉大学

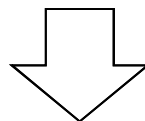
池田俊也

諸外国で利用されている 急性期入院医療のアウトカム指標の例

	米国	英国(イングランド)	オーストラリア
分析・公開者	Medicare Hospital Compare	Health & Social Care Information Centre	Australian Institute of Health and Welfare
合併症	重症合併症発生率(医原性気胸、周術期肺塞栓症、深部静脈血栓症など)	静脈血栓塞栓症に関連した事象による死亡	入院中に発生した有害事象
感染・安全	中心静脈カテーテル関連血流感染 カテーテル関連尿路感染 結腸癌の手術部位感染	医療関連感染の発生(MRSA, ディフィシル菌)	転倒転落
①治癒・軽快		大腿骨頸部骨折の患者で30日あるいは120日の時点で歩行能力が骨折前の状態まで改善している患者の割合	
死亡率	COPD、急性心筋梗塞等の疾患での入院後30日以内の死亡率 心臓バイパス手術での術後30日以内死亡率	入院中または退院後30日以内の死亡率	
②再入院	COPD、急性心筋梗塞等の疾患での退院後30日以内の計画外再入院率 病院全体での退院後30日以内の計画外再入院率	退院後30日以内の緊急再入院	膝関節置換術等の外科手術で退院後28日以内の計画外再入院

①退院時転帰（治癒・軽快）の評価にあたって

- 諸外国において、「治癒・軽快」がアウトカム指標として用いられる範囲は非常に限定的である。
- 「治癒」のみをアウトカム指標として用いる場合には、疾患を限定する必要がある。



- DPC制度には専門病院やケアミックス型の病院も存在するため、疾患を限定することは公平な評価方法とは言えないのではないか。
- 疾患ごとに「治癒」の概念にバラツキがある現状を考えると、DPC制度全体のアウトカム指標としては、「治癒＋軽快」の割合をモニタリングしてはどうか。

②諸外国におけるアウトカム指標としての再入院の取扱い(詳細)

	米国	英国(イングランド)	オーストラリア
退院後日数	30日以内	30日以内	28日以内
疾病別・手術別の再入院率の対象患者	急性心筋梗塞、心不全、肺炎、COPD、脳卒中、心臓バイパス手術、膝関節・股関節置換術(65歳以上)		膝関節置換術、股関節置換術、扁桃腺摘出術・アデノイド切除術、子宮摘出術、前立腺切除術、白内障手術、虫垂切除術
病院全体の再入院率の対象患者	精神疾患・リハビリテーション・悪性腫瘍の内科的治療以外の全入院患者(65歳以上)	悪性腫瘍と産科以外の全入院患者	
再入院の定義	計画外の再入院患者。但し、骨髄移植・臓器移植、リハビリテーション、正常分娩等による再入院は除外。	緊急再入院の患者。	計画外の再入院患者。(再入院の主傷病が合併症病名である患者に限定)
リスク調整・標準化	年齢、初回入院前の併存症などを考慮。	性別、年齢、初回入院が緊急入院か否か、診断名・手術名などを考慮。	実施しない。

DPC制度における再入院の見直し

現状

値	区分
1	計画的再入院
2	予期された再入院
3	予期せぬ再入院

改訂案

1	計画的再入院
2	計画外の再入院

理由の種別

現状

値	1. 計画的再入院	2. 予定された再入院	3. 予定せぬ再入院
1	前回入院で術前検査等を行い、今回入院で手術を行うため	予定された原疾患(※1)の悪化、再発のため	予定せぬ原疾患(※1)の悪化、再発のため
2	前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため	予定された原疾患(※1)の合併症発症のため	予定せぬ原疾患(※1)の合併症発症のため
3	計画的な化学療法のため	予定された併存症(※2)の悪化のため	予定せぬ併存症(※2)の悪化のため
4	計画的な放射線療法のため	患者のQOL向上のため一時帰宅したため	新たな他疾患発症のため
5	前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため	その他	その他
6	その他	入力不可	入力不可

※1: 前回入院時に医療資源を最も投入した傷病を指す

※2: 前回入院時の入院時併存症及び入院後発症疾患を指す

改訂案

値	1. 計画的再入院	2. 計画外の再入院
1	前回入院で術前検査等を行い、今回入院で手術を行うため	原疾患の悪化、再発のため
2	前回入院以前に手術を行い、今回入院で計画的に術後の手術・処置・検査を行うため	原疾患の合併症発症のため
3	計画的な化学療法のため	前回入院時の入院時併発症の悪化のため
4	計画的な放射線療法のため	前回入院時の入院後発症疾患の悪化のため
5	前回入院時、予定された手術・検査等が実施できなかったため	前回入院時の手術・処置や治療の合併症が退院後に発症したため
6	患者のQOL向上のため一時帰宅したため	新たな他疾患発症のため
7	その他	その他

再入院率の評価にあたって

- 対象患者
 - 産科は除外。悪性腫瘍患者の取扱いは従来通りとしてはどうか。
 - 病院全体の再入院率を評価する場合にはリスク調整・標準化を行ってはどうか。
- 計画的再入院の取り扱い
 - 原則として、計画外の再入院を評価対象としてはどうか。
 - 評価対象期間は4週間あるいは30日としてはどうか。
- 手術・処置の合併症による再入院の場合の病名記載
 - 再入院時の入院契機病名として初回入院時の原疾患を記載し、入院時併存症に「手術・処置の合併症」等を記載することを原則としてはどうか。